



2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月14日

上場会社名 株式会社 ピエトロ

上場取引所 東

コード番号 2818 URL <https://www.pietro.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 泰行

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長 (氏名) 池田 章朗

TEL 092-724-4927

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	5,037	10.2	186		187		74	
2023年3月期第2四半期	4,572	6.9	36		30		81	

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 90百万円 (%) 2023年3月期第2四半期 43百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	12.33	
2023年3月期第2四半期	13.07	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	9,439	5,039	53.4	828.78
2023年3月期	8,832	5,057	57.3	834.57

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 5,039百万円 2023年3月期 5,057百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		24.00	24.00
2024年3月期(予想)				24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,170	11.7	250		242		120		19.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	6,257,230 株	2023年3月期	6,257,230 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	176,195 株	2023年3月期	196,658 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	6,066,419 株	2023年3月期2Q	6,046,109 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算説明会及び四半期決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2023年11月14日(火)にアナリスト向け四半期決算説明会を開催する予定です。

四半期決算補足説明資料については、説明会当日に会場にて配布及び説明会終了後に当社HPに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日)におけるわが国経済は、コロナ禍の終息に向けた動きが加速し、経済活動が正常化に向かう一方、物価高や世界的な金融引き締め政策の影響による経済の減速、円安の長期化等、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界では原材料費の高騰等に伴う様々な商品の値上げ拡大による影響が大きく、節約志向が一段と強まりました。一方、外食業界におきましては、行動制限も緩和され回復傾向ではありますが、原材料やエネルギー価格の上昇、労働力不足による人件費上昇等、依然として経営環境は厳しいものとなっています。

このような状況のもと、当社グループは、商品、レストラン、ショップを通して「おいしさと健康」をお客様に提供し、ファンを基盤にした経営、マーケティングの強化、商品の強みを生かした価値訴求のさらなる追求を行ってまいりました。

商品事業では、流通顧客の課題解決に向けた提案力強化の営業改革に取り組んだことに加え、前期に行った価格改定の効果により増収となりました。店舗事業では、顧客満足を追求した施策や新規出店効果により大幅な増収となり、当第2四半期連結累計期間の売上高は、グループ全体で50億37百万円(前年同期比10.2%増)となりました。

利益面では、商品事業において原材料や資材価格等の高騰影響はあったものの、価格改定の効果や、利益構造改革により店舗事業が再黒字化を達成したこと等により営業利益は1億86百万円(前年同期は36百万円の損失)、経常利益は1億87百万円(前年同期は30百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は74百万円(前年同期は81百万円の損失)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

なお、前連結会計年度末より報告セグメントの変更を行っており、従来「食品事業」「レストラン事業」としていた報告セグメントの名称を「商品事業」「店舗事業」に変更しております。また、従来「食品事業」に含めていた「直販事業」は、変更後のセグメント区分において「店舗事業」に含めております。前年同期比較・分析については、変更後のセグメント区分に基づいております。

①商品事業

・ドレッシングカテゴリー

収益基盤のドレッシングカテゴリーでは、発売から42年の主力商品「ピエトロドレッシング和風しょうゆ」が、2023年5月初めに累計出荷本数3億本を達成したことを記念し、これまでの感謝を込め、お客様の願いを叶える「ありがとうチャレンジ」企画や様々な感謝イベントを実施しました。さらに、「野菜嫌いをナオソ。」をスローガンに掲げた『100万人へおいしさを届けるプロジェクト』を発足し、「ピエトロドレッシング和風しょうゆ」の使い切りサイズのサンプリングを通じて、これまで商品をご存じなかったお客様とのコミュニケーションを図り、野菜嫌いの克服をお手伝いする活動を始動いたしました。

また、新商品として「ピエトロドレッシング黄金しょうが」(秋冬限定)やリニューアル商品として、主役の『ごま』にこだわった「ピエトロドレッシング焙煎香りごま」を発売しました。

以上の取り組みに加え、前期に行った価格改定の効果もあり、ドレッシングカテゴリーは前年同期を上回る販売額となりました。

・パスタカテゴリー

第2の柱であるパスタカテゴリーでは、ボトル入りパスタソース「おうちパスタシリーズ」4種の個食パックアソートセットやお試し2種セットを発売し、新たな需要拡大を図るとともに、ごま醤油ガーリック、ペペロンチーノ、バジルを中心に営業活動を強化し、量販店への配荷を拡大いたしました。

また、手軽で本格的なレトルトパスタソース「洋麺屋ピエトロ」は“レストランの味をご家庭で”の強みを活かした提案やエリア広報、プロモーションの強化を行った結果、なす辛、絶望スパゲティが好調に推移いたしました。

プレミアムパスタ麺「AGNESI」は“ピエトロレストランで使用するプレミアムパスタ麺”として認知拡大を図ったことにより、家庭用、業務用ともに前年同期を大きく上回る販売額となりました。

しかしながら、新型コロナウイルス自宅療養者向け商品供給の反動が影響し、パスタカテゴリー全体での販売額は前年同期を下回る結果となりました。

・冷凍商品カテゴリー

成長事業である冷凍商品カテゴリーでは、シェフ自らが開発に携わり、レストランオリティの味が家庭で簡単に楽しめる点を強みとし、冷凍パスタを中心にピザ、ドリア、グラタンなどの拡販強化を行ってまいりました。また“できたての美味しさ”を追求したプレミアム冷凍商品として、新たに開発した「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ お肉好きのあなたのためのボロネーゼ」をはじめ、冷凍グラタンや冷凍ピザ等のリニューアル商品を発売し、配荷の拡大に繋げました。

特に量販店向けの「洋麺屋ピエトロシリーズ（冷凍パスタ）」が好調に推移し、前年同期の販売額を上回りました。

・スープカテゴリー

素材や調理法にこだわった「PIETRO A DAY」ブランドとして育成中のスープカテゴリーは、通信販売をはじめ、店舗事業セグメントでもある直販店、レストラン店頭物販商品として、販売を順調に伸ばしました。特に夏季は冷たく冷やして食べられる「国産じゃがいものヴィシソワーズ-生クリーム仕立て-」や「北海道産ピュアホワイトの白いコーンポタージュ」等が好調に推移いたしました。9月に数量・期間限定商品「小さい秋のSOUP マッシュルームとパルミジャーノのポタージュ」を発売する等、定番商品の他、季節・地域限定商品も取り揃えており、豊富なラインナップで選ぶ楽しさもご好評をいただいています。

・その他カテゴリー

フライドオニオン「PATFUTTE（パットフッテ）」シリーズは、レストランのテーブルに常備して自由にお試しただけの“テーブルマーケティング”により、レストラン店頭物販で好調が続く実績を基に量販店向けの配荷拡大に取り組んだ結果、流通商品としても順調に販売額を伸ばしました。

さらに通信販売では、自社ECサイトを、よりお客様が魅力的に感じていただけるようリニューアルを行うとともに、大手ECモールへの新規出店等も積極的に行い、特に冷凍商品・スープの両カテゴリーを中心にEC販売の強化を行ってまいりました。

利益面では、主原料価格の高騰の影響があったものの、価格改定の効果や製造原価低減に努めた結果、セグメント売上高は30億72百万円（前年同期比2.3%増）、セグメント利益は8億80百万円（前年同期比6.9%増）の増収増益となりました。

②店舗事業

・レストラン店舗

レストラン店舗では、味、雰囲気、サービスの総合点を磨き、顧客満足度向上を図ってまいりました。おいしさをさらに追求した高付加価値メニューや季節のフルーツを贅沢に使用したデザートを提供、ディナーメニューの強化、より質の高いサービスを追求するためのスタッフ研修のさらなる強化等の施策を行ったことにより、既存店の顧客単価、来客数ともに上昇いたしました。さらに、8月から9月にかけて期間限定で、人気メニューでもある「絶望スパゲティ」に最辛バージョンが登場する『絶望まつり』を開催し、辛いもの好きのお客様楽しんでいただくと同時に、「洋麺屋ピエトロ」レトルトソースの販売拡大に繋げました。物販強化策としては、テイクアウトメニューの拡充、デリバリーへの対応、レストランでのテーブルマーケティング等に引き続き取り組んでまいりました。また商品事業とのシナジーが期待できる未出店エリアへの出店を積極的に行いました。これらの結果、レストラン店舗の販売額は前年同期を大きく上回りました。

・直販店舗

スープカテゴリーでもあるPIETRO A DAY ブランド等の直販店舗では、スープの試食や、カフェメニューを通じて、商品の美味しさをお客様に直接伝えるマーケティングや期間限定のPOP UP 店舗の出店も継続的に行いました。また季節やイベントに応じたギフト提案を行う等、認知拡大を図ったことにより、流通やオンラインでの販売にも繋げることができました。

また、当社の全商品シリーズが揃う初のオフィシャルショップを名古屋に新規出店いたしました。より商品の魅力や価値が伝わるような商品ディスプレイの強化を図り、お客様に手にとっていただきやすい売り場づくりを行ってまいりました。

店舗の新規出店につきましては以下のとおりです。

出店時期	店舗名
2023年4月	ピエトロ イオンモール新潟南店
2023年4月	ピエトロ イオンモール札幌発寒店
2023年5月	ピエトロ 東京ドームシティ ラクーア店
2023年6月	PIETRO MIOMIO 福岡大名ガーデンシティ店
2023年8月	ピエトロ OFFICIAL STORE 名古屋ラシック店

利益面におきましては、レストラン店舗の売上が好調だったことに加え、原材料や諸費用の価格上昇に伴うメニューの見直しや価格改定の効果、人員配置の効率化等に取り組んでまいりました。

以上の結果、セグメント売上高は18億83百万円（前年同期比26.5%増）、セグメント利益は34百万円（前年同期は87百万円の損失）と増収増益となり、再黒字化を達成いたしました。

③その他（本社ビル等の賃貸）事業

その他（本社ビル等の賃貸等）事業におきましては、売上高は82百万円（前年同期比3.0%増）セグメント利益は36百万円（前年同期比0.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ6億7百万円増加し94億39百万円となりました。これは主に現金及び預金が2億27百万円、売掛金が2億41百万円、有形固定資産が1億20百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ6億25百万円増加し43億99百万円となりました。これは短期借入金4億円、買掛金が1億6百万円、未払法人税等が94百万円、未払金が70百万円それぞれ増加する一方、長期借入金（1年内含む）が53百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ18百万円減少し50億39百万円となりました。これは譲渡制限付株式報酬制度導入に伴う自己株式の処分35百万円並びに為替換算調整勘定が12百万円増加した一方、前期決算の剰余金の配当1億45百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益74百万円の計上によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	407	425	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△220	△360	△139
財務活動によるキャッシュ・フロー	△235	177	413
現金及び現金同等物に係る換算差額	45	15	△29
現金及び現金同等物の増減額	△3	258	261
現金及び現金同等物の期末残高	1,287	1,617	330

営業活動によるキャッシュ・フローは、4億25百万円の収入（前年同期は4億7百万円の収入）となりました。税金等調整前四半期純利益が1億79百万円であり、減価償却費2億15百万円の計上があったことと、売上債権が2億40百万円、仕入債務が1億5百万円、未払金が1億2百万円増加したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、3億60百万円の支出（前年同期は2億20百万円の支出）となりました。有形固定資産の取得による支出3億31百万円、長期前払費用の取得による支出26百万円がそれぞれあったこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億77百万円の収入（前年同期は2億35百万円の支出）となりました。長期借入金の返済による支出53百万円、配当金の支払額1億45百万円がそれぞれあった一方、短期借入金の純増減額が4億円増加したこと等によるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、16億17百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月12日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

なお、上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,313,810	1,541,106
預け金	45,864	76,645
売掛金	1,323,877	1,565,341
商品及び製品	166,059	183,899
仕掛品	12,638	20,427
原材料及び貯蔵品	140,360	148,937
その他	137,525	105,095
貸倒引当金	△19	△35
流動資産合計	3,140,117	3,641,417
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,228,029	2,388,540
土地	1,979,201	1,979,201
その他(純額)	680,381	640,221
有形固定資産合計	4,887,612	5,007,963
無形固定資産	88,321	69,129
投資その他の資産		
敷金及び保証金	413,190	422,512
保険積立金	82,188	82,188
その他	240,004	235,637
貸倒引当金	△19,392	△19,332
投資その他の資産合計	715,991	721,006
固定資産合計	5,691,925	5,798,099
資産合計	8,832,042	9,439,517

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	530,489	637,049
短期借入金	1,350,000	1,750,000
1年内返済予定の長期借入金	113,333	126,667
未払金	506,451	576,768
未払法人税等	20,530	115,415
契約負債	48,337	31,045
賞与引当金	70,456	74,481
その他	373,106	353,613
流動負債合計	3,012,703	3,665,040
固定負債		
長期借入金	143,334	76,667
リース債務	80,462	69,440
長期未払金	156,925	156,925
退職給付に係る負債	163,457	169,028
資産除去債務	113,639	152,028
その他	103,532	110,550
固定負債合計	761,351	734,639
負債合計	3,774,055	4,399,680
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,042,389	1,042,389
資本剰余金	1,078,422	1,080,366
利益剰余金	3,238,885	3,168,215
自己株式	△336,898	△301,845
株主資本合計	5,022,798	4,989,126
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	814	3,573
為替換算調整勘定	34,373	47,132
その他の包括利益累計額合計	35,188	50,706
非支配株主持分	-	4
純資産合計	5,057,987	5,039,837
負債純資産合計	8,832,042	9,439,517

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	4,572,758	5,037,843
売上原価	2,227,362	2,362,026
売上総利益	2,345,396	2,675,816
販売費及び一般管理費	2,381,479	2,488,858
営業利益又は営業損失(△)	△36,083	186,957
営業外収益		
受取利息	157	143
受取配当金	128	188
為替差益	8,198	3,517
その他	1,761	1,687
営業外収益合計	10,245	5,536
営業外費用		
支払利息	3,577	3,695
シンジケートローン手数料	1,263	1,133
その他	132	106
営業外費用合計	4,973	4,936
経常利益又は経常損失(△)	△30,811	187,557
特別利益		
保険解約返戻金	7,413	—
特別利益合計	7,413	—
特別損失		
固定資産除却損	51	94
固定資産売却損	—	310
減損損失	61,596	—
投資有価証券評価損	—	7,853
特別損失合計	61,648	8,257
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△85,045	179,299
法人税、住民税及び事業税	40,547	93,698
過年度法人税等戻入額	△20,625	△3,863
法人税等調整額	△23,770	14,686
法人税等合計	△3,848	104,521
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△81,197	74,778
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△5
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△81,197	74,783

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△81,197	74,778
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△44	2,759
為替換算調整勘定	37,287	12,758
その他の包括利益合計	37,243	15,518
四半期包括利益	△43,954	90,296
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△43,954	90,302
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△5

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失 (△)	△85,045	179,299
減価償却費	215,020	215,556
減損損失	61,596	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△57	△44
賞与引当金の増減額 (△は減少)	6,315	4,025
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	16,387	5,571
株式報酬費用	17,093	16,815
保険解約返戻金	△7,413	—
固定資産売却損益 (△は益)	—	310
固定資産除却損	51	94
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	7,853
受取利息及び受取配当金	△285	△331
支払利息	3,577	3,695
売上債権の増減額 (△は増加)	73,227	△240,383
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△7,772	△33,185
仕入債務の増減額 (△は減少)	48,191	105,603
未払金の増減額 (△は減少)	△8,379	102,064
未払又は未収消費税等の増減額	62,546	△38,174
その他	57,397	63,829
小計	452,451	392,597
法人税等の支払額	△67,330	△7,938
法人税等の還付額	21,905	40,726
営業活動によるキャッシュ・フロー	407,026	425,385
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△179,239	△331,809
有形固定資産の売却による収入	—	147
無形固定資産の取得による支出	△15,284	△2,534
敷金及び保証金の回収による収入	575	256
敷金及び保証金の差入による支出	△15,422	△9,216
貸付けによる支出	△300	△1,500
貸付金の回収による収入	3,721	3,276
長期前払費用の取得による支出	△24,292	△26,104
保険積立金の積立による支出	△9,824	—
保険積立金の解約による収入	21,076	—
長期預り金の返還による支出	△1,500	△3,486
長期預り金の受入による収入	—	10,504
利息及び配当金の受取額	285	314
投資活動によるキャッシュ・フロー	△220,205	△360,152
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	400,000
長期借入金の返済による支出	△60,794	△53,333
リース債務の返済による支出	△26,814	△20,908
自己株式の取得による支出	△67	—
非支配株主からの払込みによる収入	—	10
配当金の支払額	△144,460	△145,109
利息の支払額	△3,565	△3,229
財務活動によるキャッシュ・フロー	△235,701	177,430
現金及び現金同等物に係る換算差額	45,057	15,413
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,823	258,076
現金及び現金同等物の期首残高	1,291,332	1,359,674
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,287,508	1,617,751

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビル等の 賃貸)事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	3,004,291	1,488,697	1,529	4,494,518	—	4,494,518
その他の収益	—	—	78,240	78,240	—	78,240
(1) 外部顧客への売上高	3,004,291	1,488,697	79,770	4,572,758	—	4,572,758
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,004,291	1,488,697	79,770	4,572,758	—	4,572,758
セグメント利益又は 損失(△)	823,932	△87,699	35,967	772,201	△808,285	△36,083

(注)1 セグメント利益又は損失(△)の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は808,285千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「店舗事業」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては61,596千円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビル等の 賃貸)事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	3,072,210	1,883,466	—	4,955,677	—	4,955,677
その他の収益	—	—	82,165	82,165	—	82,165
(1) 外部顧客への売上高	3,072,210	1,883,466	82,165	5,037,843	—	5,037,843
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,072,210	1,883,466	82,165	5,037,843	—	5,037,843
セグメント利益	880,767	34,015	36,098	950,881	△763,924	186,957

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は763,924千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する情報

前連結会計年度末において、従来「食品事業」「レストラン事業」としていた報告セグメントの名称を「商品事業」「店舗事業」に変更しております。また、従来「食品事業」に含めていた「直販事業」は、変更後のセグメント区分において「店舗事業」に含めております。この変更は、中期的な事業戦略に基づき、2023年3月に実施した組織改正に伴うものであります。

なお、前第2四半期連結累計期間の「セグメント情報」については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。